

## ごあいさつ

いつも阪神電車をご利用いただき、誠にありがとうございます。

当社は、その経営理念に「安心・快適」そして「夢・感動」を掲げており、常にお客さまの安心の最も重要な基盤である安全を最優先とした鉄道事業の運営に重きを置いてまいりました。鉄道の安全・安定輸送を継続することこそが、鉄道事業の信用そのものであり、当社がお客さまに提供してきた「阪神らしさ」であると考えています。これからも当社グループが掲げる「“たいせつ”がギュッと。」のブランドスローガンの下、お客さま一人ひとりの“たいせつ”と向き合い、その信頼と期待に応えて変わらぬ安心をお届けしてまいります。



阪神電気鉄道株式会社  
代表取締役・社長

久須 勇介

さて 2023 年度は、引き続き「責任事故ゼロの継続」を安全目標とし、次のとおり、ハード・ソフト両面にわたり安全性の向上に取り組みました。

まず、現在整備を進めているホームドアについては、大阪梅田駅の改良工事により 1 番線から 4 番線のすべての番線の設置が完了し、神戸三宮駅を含め当社における乗降 10 万人以上の駅のホームドア整備が完了しました。今後も「鉄道駅バリアフリー料金制度」を活用し、設置が完了した尼崎駅 1、2 番線を皮切りに、乗降 10 万人未満の駅についてホームドア整備を加速してまいります。このほか、阪神なんば線淀川橋梁の改築や高架橋の耐震補強、車両の新造などを着実に進め、運転保安度の向上に努めました。

また、2023 年度は安全重点施策を『ヒューマンエラーに起因する「事故の芽」事象の削減』、『自然災害及び鉄道テロ発生時等の異常時における対応力の強化』、『知識と技能の着実な継承』の 3 項目とし、これらを中心に具体的な行動計画を定めて種々取り組みました。特に、大規模地震の発生を想定して実施した鉄道非常事態対応総合訓練では、デジタルチャットツールを活用した情報収集・共有体系を新たに構築し、スムーズな情報伝達や的確な状況把握といった観点からも、対応力の強化に努めました。

上記の安全重点施策は鉄道輸送の安全を確保する上で欠かすことのできないテーマであることから、2024 年度もこれら 3 点に取り組むこととするほか、本年 4 月に開設した安全啓発施設「安全繫心室」を積極的に活用し、安全意識の向上と安全風土の醸成を図ることで、安全重点施策のより一層の推進に取り組んでまいります。

このような取り組みを通じて、引き続き、「責任事故ゼロの継続」を安全目標とし、お客さまに安心してご利用いただけるよう全役員・社員が一丸となって輸送の安全確保に注力してまいります。

本報告書は、鉄道事業法第 19 条の 4 の定めに基づき、当社の安全確保に関する取り組みや鉄道の適切なご利用について皆さまにご理解いただくために公表するものです。ぜひ本報告書をご一読いただき、ご意見やご感想をお聞かせくださいますようお願いいたします。

2024 年 7 月